

SEIJIU  
2007年  
第38卷

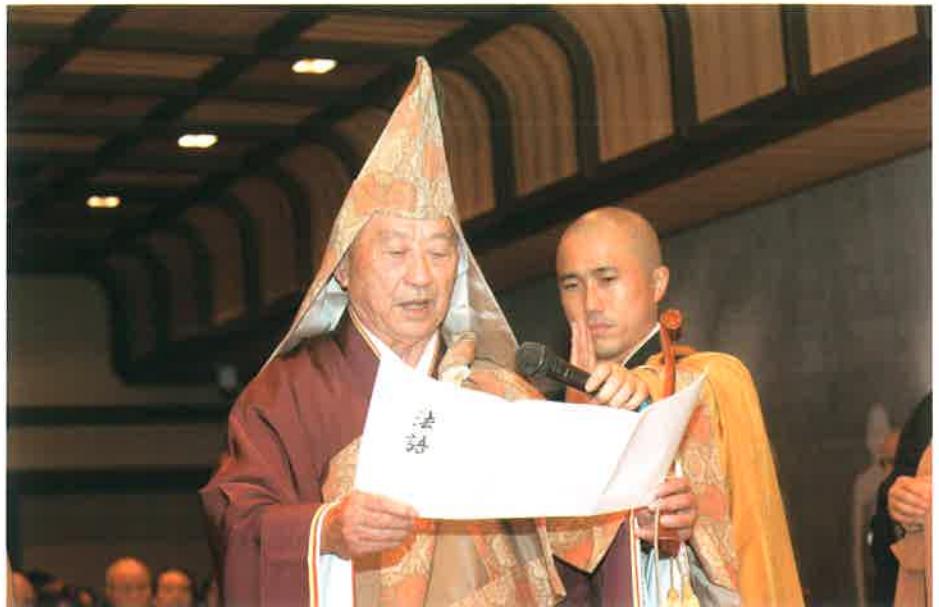
吉成

冬号





一周忌から一年を経た平成十八年十二月  
十二日、当山釈迦殿では大圓大和尚の三回  
忌がつつがなく執り行われました。当日は、  
大和尚に縁のあるご尊宿のご寺院様、教区  
のご寺院様をはじめ、総代・役員のみなさ  
まが善光寺を訪れ、亡き大圓大和尚の冥福  
を祈り、また、在りし日の思い出に浸りま  
した。「善光寺が滞りなく本日を迎えるこ  
とができることは、師匠の余徳と非常に感  
謝しております。さらにこの一年間、多く  
の方々にご指導をいただき、改めて人と人  
との繋がりの大切さを感じた一年だったと  
思います」と、博志住職の挨拶ではご臨席  
の方々に心から感謝を伝えていました。



導師本寺光真寺黒田俊雄老師



壁画に描かれた大圓大和尚と博志住職



導師様にお礼のお誓をする博志住職

多くのご寺院様の読経に  
包まれた厳肅な空氣の中で



ご寺院様によるご焼香



大圓大和尚に縁の深いみなさまにお集まりいただいて

黒田さんと回ったアメリカのことを思い出しました。これから三十年も経てば仏教や禪の中心はアメリカやヨーロッパに移るのではないかと予感しています。それを広げてきた大きな力は前角老師と黒田老師です。我々も新しい時代に向けてどういうふうにしなければならないか、いまさらのことく感じています。



大乗寺山主  
東隆眞老師

『成寿』を読み直すと、大圓大和尚はなかなか普通ではできない、勇気と素晴らしい決断力を持ち、そして行動に移した人、というのが実感です。そして、その背景に和合の心、慈悲の心がみなぎっているからこそ、みんながそれを信じ、それに従っていくのです。檀信徒の方々はこの魅力についていくのだとつくづく思いました。



駒澤大学理事  
宮本延雄様

思い出といえば、それがあり過ぎるほど、大圓和尚とはいろいろなご縁がありました。ここにおられる東老師とお親しくなれたのも大圓和尚の影響です。そう考えると寂しいですよ。私の寺にもこれと同じ大圓和尚の写真を飾っています。いつもその活力、パワーを感じています。

育英会のことなどで、なかなか大圓和尚の志が理解されず、そうしたときに彼の愚痴を聞いたり、「どうしたらいい?」と聞かれて、その度にいろいろと答えていました。いろいろなエピソードが浮かんできます。

そんな大圓和尚がこのお寺を、あるいはみなさまをこれからもお守りいただけるように、祈念しております。



埼玉・能仁寺住職  
萩野映明老師



正翁寺住職  
篁素明老師



故人を偲びながらの設齋